## 2025年度 学科別授業科目一覧表 (実務経験表記あり)

課程: 工業専門課程 学科: 高度情報システム科

		1					
NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須·選択	講義·実習	実務経験
31	C言語演習Ⅲ	2	60	4	必修	実習	有
32	Java演習 I	2	60	4	必修	実習	有
33	Java文法 I	2	30	2	必修	講義	有
34	Python I	2	60	4	必修	実習	有
35	Webプログラミング	2	60	4	必修	実習	有
36	JavaScript II	2	60	4	必修	実習	有
37	UML I	2	30	2	必修	講義	有
38	データベース演習(SQL)	2	60	4	必修	実習	有
39	Oracle DBA	2	60	4	必修	実習	有
40	CCNA III	2	30	2	必修	実習	有
41	CCNA IV	2	60	4	必修	講義	有
42	CCNA V	2	30	2	必修	実習	有
43	CCNA VI	2	60	4	必修	講義	有
44	Linux I	2	60	4	必修	実習	有
45	Linux II	2	60	4	必修	実習	有
46	VBA	2	30	2	必修	実習	有
47	基本情報対策    (科目対策    )	2	30	2	必修	講義	無
48	応用情報対策	2	30	2	必修	講義	無
49	国家試験対策Ⅰ(FE科目B対策Ⅱ)	2	30	2	必修	講義	無
50	基礎数学Ⅲ	2	30	2	必修	講義	有
51	AI数学 I	2	30	2	必修	講義	有
52	基礎英語	2	30	2	必修	講義	有
53	プレゼンテーション	2	30	2	必修	実習	有
54	企業会計Ⅰ	2	30	2	必修	講義	有
55	情報関連法規	2	30	2	必修	講義	有
56	体育実習	2	30	2	必修	実習	無
57	課外活動Ⅱ	2	15	1	選択	実習	無

開講課程			開講学科	開講年度	履修対象			
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025	2025		前期	
講義区分  授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数	
	専門	必修	実習	C言語演習Ⅲ	稲垣 高宏	有	4 単位	60 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

C#を理解して、ウィンドウズのアプリが作成できるようになる。

## 【講義概要】

C言語を理解している前提でC#の文法を説明する。 とにかく演習で手を動かしてプログラムを実行する。

回	授業計画及び学習の内容
1	Visual Studioの基本操作
2	C#の制御文の基本
3	フォーム操作の基本
4	ラベルとボタン操作
5	コンボボックスとリストボックスの操作
6	ラジオボタンの操作
7	まとめ1-1
8	まとめ1-2
9	画像操作
10	画像操作2
11	マウスイベント
12	タイマー処理
13	ネットワーク処理の基本
14	まとめ2-1
15	まとめ2-2

### 【成績評価方法】

	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
Ī	割合	60%			40%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

## 【教員紹介】

メーカ系IT企業でSE、プログラマとして開発業務に従事する。退職後に、シグマプロジェクトの研究員を務める。20代で起業 して外資系やメーカ系の会社などを中心に開発業務に従事する。開発のほかに、マニュアルなどの翻訳や出版業務も行う。

### 【教科書・参考文献】

なし

開講課程			開講学科	開講年度	時間割	履修対象
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025 年	火曜 34限	2 年 後期
講義区分  授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数
専門	必修	実習	Java演習 I	稲垣 高宏	有	4 単位 60 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

JAVA文法 I の講義内容を理解するために、その講義に対応した演習問題をおこなう。 基礎を学ぶ。

### 【講義概要】

JAVA文法 I の講義内容を理解するために、その講義に対応した演習問題を実際に作成して実行して確認する。

授業計画及び学習の内容
プログラムの書き方
式と演算子
制御文ifとfor
配列
メソッド
クラス
まとめ
オブジェクト指向
インスタンスとクラス
クラスと機構
カプセル化
継承
継承2
多様性
まとめ

### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	60%			40%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

### 【教員紹介】

メーカ系IT企業でSE、プログラマとして開発業務に従事する。20代で起業して外資系やメーカ系の会社などを中心に開発業務 に従事する。開発のほかに、マニュアルなどの翻訳や出版業務も行う。

## 【教科書・参考文献】

参考文献:スッキリわかるJava入門 中山 清喬/国本大悟著

開講課程			開講学科	開講年度	時間割	履修対象
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025 年	火曜 2限	2 年 後期
講義区分授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数
専門	必修	講義	Java文法 I	稲垣 高宏	有	2 単位 30 時間

### 【授業の到達目標及びテーマ】

JAVAの文法を理解する。特に、クラスの概念を詳しく教える。C言語の文法は、知っているとして進める。 基礎を学ぶ。

## 【講義概要】

C言語は使えるとして講義を進めるが、基礎の基礎から始めて文法全体を説明する。

回	授業計画及び学習の内容
1	プログラムの書き方
2	式と演算子
3	制御文ifとfor
4	配列
5	メソッド
6	クラス
7	中間試験
8	オブジェクト指向
9	インスタンスとクラス
10	クラスと機構
11	カプセル化
12	継承
13	継承2
14	多様性
15	期末試験

### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	60%			40%			100%

(補足)

・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

### 【教員紹介】

メーカ系IT企業でSE、プログラマとして開発業務に従事する。20代で起業して外資系やメーカ系の会社などを中心に開発業務 に従事する。開発のほかに、マニュアルなどの翻訳や出版業務も行う。

## 【教科書・参考文献】

参考文献:スッキリわかるJava入門 中山 清喬/国本大悟著

開講課程			開講学科	開講年度		履修対象	
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025	2025		後期
講義区分   授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	必修	実習	Python I	仲 智弘	有	4 単位	60 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

Python の基本文法を習得する。

## 【講義概要】

プログラミング演習を通して Python の基本文法を習得し、それを応用した AI プログラミングでさらに理解を深める。

回	授業計画及び学習の内容
1	Python: 言語の基礎、データ型
2	Python: 関数、クラス
3	Python: クラス、条件分岐、繰り返し
4	Python: 繰り返し、内包表記
5	Python: 継承
6	Python: インターフェース、Mixin
7	AI基礎:中間試験 (Python 理解度確認)
8	Python: デコレータ、property、クラス変数、クラスメソッド、スタティックメソッド
9	Python: 例外処理、スコープ、import、PyPI
10	Python: mypy、Optional、ラムダ、クロージャ、ジェネレータ
11	AI基礎: Tkinter 演習 1
12	AI基礎: Tkinter 演習 2
13	AI基礎: ハノイの塔アプリ制作
14	AI基礎: 画像認識アプリ制作

## 【成績評価方法】

15 AI基礎: 期末試験 (Python 理解度確認)

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	60%			40%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。

## 【教科書・参考文献】

東京電子専門学校 高度情報システム科

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
工業専門課程			高度情報システム科	2025		2年	前期
講義区分  授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門 必修 実習		実習	Webプログラミング	坂巻真美	有	4 単位	60 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

XAMPP環境を用いてWebシステムの基本的な仕組みやシステム構築について学習します。

### 【講義概要】

各回のテーマに関する演習を通して理解を深めます。

	位本計画14250mの中立
回	授業計画及び学習の内容
1	PHP入門
2	PHP基礎 - 書き方/実行方法・変数・組み込み関数
3	PHP基礎 - 入力フォーム・配列
4	PHP基礎 - 条件分岐・リダイレクト
5	PHP基礎 - フィルタリング・選択肢によるフォーム操作
6	ここまでのまとめ
7	中間課題
8	PHP応用 - DBMSとPHP
9	PHP応用 - 連想配列・多次元配列・繰り返し
10	PHP応用 - ファイル分割・ユーザー定義関数
11	PHP応用 - セッション・SQLインジェクション
12	PHP応用 - トランザクション・ハッシュ化
13	ここまでのまとめ
14	最終課題
15	PHP総まとめ - Webアプリケーション・オブジェクト指向

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他( 出席点 )	合計
割合	40%			20%	40%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

- ・IT企業にてモバイルアプリ開発に従事 ・法人および個人向けITスクールにて開発系の科目を12年間担当

## 【教科書・参考文献】

PHP Tutorial (オリジナルテキスト) 基礎・応用

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
工業専門課程      高度憶			高度情報システム科	2025		2年	前期
講義区分  授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	専門 必修 実習		JavaScriptⅡ	高橋 義博	有	4 単位	60 時間

### 【授業の到達目標及びテーマ】

Web APIの取得を学習し、Webアプリの制作方法を理解できるようになる。Video要素などJavaScriptの利用が必須のHTML要素の技術 を学習する。これらの技術を使って、Webアプリを作成していく。

## 【講義概要】

本講義ではプログラミング用のエディタの基本的な使い方についても習得する。理解度を図るためのテストも実施する。自主学習も 必要不可欠である。教科書を使用するため、教科書は必携すること。(貸出不可)

回	授業計画及び学習の内容
1	これまでの総復習
2	Dateオブジェクトの学習
3	Dateオブジェクトの学習
4	小テスト:デジタル時計の作成
5	簡易郵便番号検索(WebAPIの活用)
6	天気予報アプリ作成(WebAPIの活用)
7	天気予報アプリ作成(JSONデータの活用)
8	天気予報アプリ作成(WebAPIの活用)
9	LocalStrageによるメモアプリ
10	LocalStrageによるメモアプリ
11	Videoの再生と制御
12	課題:オリジナル時計の作成
13	課題:オリジナル時計の作成
14	課題レポート
15	課題レポート

### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	60%		20%	20%			100%

60点以上を及第点とする。 (補足) ・成績は100点を最高とし、

- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。・レポートや自習課題は必ず提出すること。

#### 【教員紹介】

#### 【教科書・参考文献】

これからのJavaScriptの教科書、狩野 祐東(著)、 SBクリエイティブ

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
工業専門課程		程	高度情報システム科	高度情報システム科 2025		2年	後期
講義区分  授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	専門 必修 講義		UML I	潮達也	有	2 単位	30 時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

到達目標はシステム開発の実践の場で要件定義、基本設計、詳細設計、プログラム設計等でUMLでドキュメントを作成出来るように なることで、環境としてはUML統合環境ツールの使用を一人称で活用出来るところを目指します

### 【講義概要】

UML統合環境を使用しそれぞれのダイヤグラムを各表記法にてどう描くかを想像できるよう実践的な捉え方を習得する

回	授業計画及び学習の内容
1	UMLとは オブジェクト指向 歴史的背景 標準化 Astah professionalツールの使用法とダイヤグラムの種類の説明
2	ユースケース図 特徴(振る舞い図) 表記ルール アクターとユースケース オブジェクト間の関係
3	ユースケース図 関連 包含 拡張 汎化 演習問題(基本問題 問題の捉え方 掴み方)
4	ユースケース図 演習問題(応用問題 実践問題 解放の手引き)
5	オブジェクト図 特徴(構造図) 表記ルール オブジェクトアイコン 属性 関係 インスタンスとクラス
6	オブジェクト図 演習問題(基本問題 応用問題 解放の手引き)
7	中間試験
8	クラス図 特徴 表記ルール 属性 操作 可視性 多重度 ロール クラス間の関係について
9	クラス図 関係には(関連 限定子 複数関連 集約 依存 汎化)
10	クラス図 関係には(コンポジション 実現 抽象クラス 関連クラス)
11	クラス図 演習問題(基本問題からクラスアイコン クラス間の関係の表記 ロールと多重度の表記)
12	クラス図 演習問題(応用問題 実践問題 UMTP/L1レベル相当の問題)
13	シーケンス図 特徴 表記ルール 同期メッセージ 非同期メッセージ リプライメッセージ
14	シーケンス図 ロストメッセージ ファウンドメッセージ 実行指定
15	期末試験

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	75%	10%		15%			100%

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

- ・IT企業にて開発プロジェクトに従事(SE)
- ・富士通のシステムソリューション部門でC言語の講義実習(2回) ・富士通ユーザーの情報システム部にてC言語・SQLの講義実習(1週間)

#### 【教科書・参考文献】

技術評論社 かんたんUML入門[改訂2版] ナツメ社 はじめて学ぶUML 第2版

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025		2 年	前期
講義区分   授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門 必修 実習		実習	データベース演習(SQL)	久良知 眞紀子	有	4 単位	60 時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

簡単なデータベースを構築し、SQLによってデータが自由に取り扱えるようになることを目指す。

### 【講義概要】

データベースの授業で学んだ内容を、XAMPPのデータベース管理システムMariaDBを用いて確認する。 SELECT文によるデータ抽出、CREATE,INSERT,UPDATE,DELETEによる表の作成・更新を学ぶ。 SQL文を7回に分けて復習する。復習した次の回には、その内容を使った演習を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	XAMPPの概要説明、サンプルデータベースのインポート。 サンプルデータを使って、SELECT命令、DISTINCTキーワード、WHERE句の演習を行う。
2	あいまい検索(LIKE)、論理演算子(演算子の強度)、並べ替え(ORDER BY) 特定範囲のレコードの抽出(LIMIT)、日付データの取扱い、NULLの扱い
3	集計、グルーピング(GROUP BY)、別名(AS)、文字列/日付データの加工(各種関数) グルーピング結果に対する条件設定(HAVING)、条件による値の変更(CASE)
4	テーブル結合(内部結合、外部結合、自己結合)
5	復習問題(1回~4回)
6	サブクエリ、複数テーブルからのデータ結合(UNION)、復習問題(1回~4回)
7	中間試験(実施予定なし)
8	仮想テーブルの作成(VIEW)、データの登録(INSERT)、更新(UPDATE)、削除(DELETE) サブクエリとの組合せ
9	データベース、テーブルの作成・削除(CREATE、DROP)、
10	総合演習1
11	総合演習2
12	総合演習3
13	総合演習4
14	総合演習5
15	期末試験(実施予定なし)

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験	小テスト	レポート	平常点	その他( 出席と課題 )	合計
割合					100%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

#### 【教員紹介】

- ①銀行でシステム開発に従事(2年)
- ②IT企業で開発に従事(2年)
- ③起業し、システム開発、教育、翻訳、テクニカルライティング(20年)
- ④専門学校でIT系科目を担当(10年)

## 【教科書・参考文献】

東京電子専門学校 高度情報システム科

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
I	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2年	後期
講義	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門 必修 実習		実習	Oracle DBA	坂井 剛	有	4 単位	60 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

Oracleデータベースシステムの構成技術の修得、及び実際にシステム構築を通して実体験を行う。 ベンダー資格「ORACLE MASTER Bronze DBA 2019」取得を目的とする。

#### 【講義概要】

教科書を利用した学習と実演習を通し、Oracle Master Bronze取得に必要な総合知識を修得する。 その他、Oracle Master Silverの一部領域、試験範囲外だが重要な項目に関しても本講義で取り入れる。 「ORACLE MASTER Bronze DBA 2019」以上の資格取得により本講義は免除となる。

#### 授業計画及び学習の内容 0racleデータベース管理の概要 1 Oracleソフトウェアのインストールとデータベースの作成 Oracle Enterprise Manager Database ExpressおよびSQL管理ツールの使用 3 4 Oracle Network環境の構成 0racleインスタンスの管理 5 6 データベース記憶域構造の管理 初期化パラメータと制御ファイルの管理 7

- 8 中間試験
- 9 ユーザーおよび権限管理
- スキーマオブジェクト(ビュー、索引、順序、別名)
- |データベースの監視およびアドバイザの使用 11
- 12 データベースのバックアップとリカバリ
- 13 マルチテナントデータベース
- 14 総合復習演習
- 15 期末試験

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	70%			30%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

#### 【教員紹介】

大学院出身後、8年間企業においてSEとして業務に携わる。

その後2010年より教員として勤務。 Oracle Master 10g~12c Silver(10g Goldは筆記のみ取得)所有。

#### 【教科書・参考文献】

『オラクルマスター教科書 Bronze DBA Oracle Database Fundamentals』(翔泳社、ISBN-9784798166360) 『オラクルマスター教科書 Silver DBA Oracle Database Administration I』(翔泳社、ISBN-9784798166353)

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
I	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2年	前期
講義	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	必修	実習	CCNA III	末満 直樹	有	2 単位	30 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

ネットワークエンジニアにとって必須となる基礎知識・技術の修得を目標とする。 ベンダー試験「Cisco Certified Network Associate(CCNA)」の合格も目指す。

## 【講義概要】

Cisco Networking Academy「CCNAv7: Introduction to Networks」のコースに従い講義を実施する。 CCNA IVでは主に説明を行い、この講義では演習を進めることで理解を深める。

回	授業計画及び学習の内容						
1	ネットワーク層						
2	アドレス解決						
3	ルータの基本設定						
4	IPv4アドレッシング						
5	IPv6アドレッシング						
6	ICMP						
7	中間試験						
8	トランスポート層						
9	アプリケーション層						
10	ネットワークセキュリティの基礎						
11	小規模ネットワークの構築						
12	オンライン最終試験						
13	最終実技試験						
14	最終実技試験						
15	期末試験						
l et	; ; ; ; ;						

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	100%						100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

### 【教員紹介】

IT企業でソフトウェアの開発業務に従事したのち、教員としてコンテンツ制作、プログラミング、サーバー/ネットワーク等の授業 を主に担当。

## 【教科書・参考文献】

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
I	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2年	前期
講義	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	必修	講義	CCNA IV	末満 直樹	有	4 単位	60 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

ネットワークエンジニアにとって必須となる基礎知識・技術の修得を目標とする。 ベンダー試験「Cisco Certified Network Associate(CCNA)」の合格も目指す。

## 【講義概要】

Cisco Networking Academy「CCNAv7: Introduction to Networks」のコースに従い講義を実施する。 この講義では主として説明を行い、CCNA Ⅲで演習を進めることで理解を深める。

回	授業計画及び学習の内容
1	ネットワーク層
2	アドレス解決
3	ルータの基本設定
4	IPv4アドレッシング
5	IPv6アドレッシング
6	ICMP
7	中間試験
8	トランスポート層
9	アプリケーション層
10	ネットワークセキュリティの基礎
11	小規模ネットワークの構築
12	オンライン最終試験
13	最終実技試験
14	最終実技試験
15	期末試験
<b>7</b> <del>∟1</del> 2	\$ <del>************************************</del>

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	100%						100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

### 【教員紹介】

IT企業でソフトウェアの開発業務に従事したのち、教員としてコンテンツ制作、プログラミング、サーバー/ネットワーク等の授業 を主に担当。

## 【教科書・参考文献】

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
I	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2年	後期
講義	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	必修	実習	CCNA V	末満 直樹	有	2 単位	30 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

ネットワークエンジニアにとって必須となる基礎知識・技術の修得を目標とする。 ベンダー試験「Cisco Certified Network Associate(CCNA)」の合格も目指す。

## 【講義概要】

Cisco Networking Academy「CCNAv7: Switching, Routing, and Wireless Essentials」のコースに従い講義を実施する。 CCNA VIでは主に説明を行い、この講義では演習を進めることで理解を深める。

回	授業計画及び学習の内容
1	デバイスの基本設定、スイッチングの概念
2	VLAN、VLAN間ルーティング
3	STPの概念
4	EtherChannel
5	DHCPv4
6	SLLAC∠DHCPv6
7	中間試験
8	FHRPの概念
9	LANセキュリティの概念
10	スイッチのセキュリティ設定
11	WLANの概念
12	ルーティングの概念
13	IPスタティックルーティング
14	スタティックルーティングとデフォルトルートのトラブルシューティング
15	期末試験

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	100%						100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

### 【教員紹介】

IT企業でソフトウェアの開発業務に従事したのち、教員としてコンテンツ制作、プログラミング、サーバー/ネットワーク等の授業 を主に担当。

## 【教科書・参考文献】

	開講課程		開講学科	開講年度		履修	対象
I	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2年	後期
講義	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	必修	講義	CCNA VI	末満 直樹	有	4 単位	60 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

ネットワークエンジニアにとって必須となる基礎知識・技術の修得を目標とする。 ベンダー試験「Cisco Certified Network Associate(CCNA)」の合格も目指す。

## 【講義概要】

Cisco Networking Academy「CCNAv7: Switching, Routing, and Wireless Essentials」のコースに従い講義を実施する。 この講義では主として説明を行い、CCNA Vで演習を進めることで理解を深める。

回	授業計画及び学習の内容
1	デバイスの基本設定、スイッチングの概念
2	VLAN、VLAN間ルーティング
3	STPの概念
4	EtherChannel
5	DHCPv4
6	SLLAC∠DHCPv6
7	中間試験
8	FHRPの概念
9	LANセキュリティの概念
10	スイッチのセキュリティ設定
11	WLANの概念
12	ルーティングの概念
13	IPスタティックルーティング
14	スタティックルーティングとデフォルトルートのトラブルシューティング
15	期末試験

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	100%						100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

### 【教員紹介】

IT企業でソフトウェアの開発業務に従事したのち、教員としてコンテンツ制作、プログラミング、サーバー/ネットワーク等の授業 を主に担当。

## 【教科書・参考文献】

	開講課程		開講学科	開講年度		履修	対象
I	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2 年	前期
講義	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	必修	実習	Linux I	鈴木 俊	有	4 単位	60 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

Linuxの利用に必要な基礎知識と基本操作方法(ファイル操作からシステム管理まで)を習得することを目標とする。

### 【講義概要】

各回、テーマに沿った演習(実機コマンド操作)を実施する。講義内での演習の作業証跡(ログや画面キャプチャ)を提出課題(平 常点)とする。また、復習としてのレポート・自習課題も提出とする。

回	授業計画及び学習の内容
1	Linuxのインストール
2	Linuxのコマンドライン操作の基本(ファイル操作)①
3	Linuxのコマンドライン操作の基本(ファイル操作)②
4	シェルのメタキャラクタ
5	標準入出力とリダイレクト
6	viエディタ
7	中間試験
8	パイプラインと grep コマンド
9	ユーザーとグループの管理
10	所有者管理とアクセス権
11	パッケージ管理
12	デバイスとファイルシステム
13	シェルスクリプト
14	バックアップとジョブスケジューリング
15	期末試験

## 【成績評価方法】

評価項目	試験	小テスト	レポート 自習課題	平常点 (演習提出)	その他( )	合計
割合	40%		10%	50%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

### 【教員紹介】

金融、通信キャリアの構築・運用業務に、インフラ(NW、サーバー)エンジニアとして従事 携帯電話会社のメールシステム構築業務、金融会社のシステム設計・構築業務、等

#### 【教科書・参考文献】

オリジナル教材ーLinux I (ベーシック)

	開講課程		開講学科	開講年度		履修	対象
I	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2年	後期
講義	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門	必修	実習	Linux Ⅱ	鈴木 俊	有	4 単位	60 時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

WebサーバーやDNSサーバーをはじめとする各種Linuxサーバーの構築技術の基本の習得、また、サーバー公開時におけるセキュリ ティ知識の基本の習得を目標とする。

#### 【講義概要】

各回、テーマに沿った演習(実機コマンド操作)を実施する。講義内での演習の作業証跡(ログや画面キャプチャ)を提出課題(平 常点)とする。また、復習としてのレポート・自習課題も提出とする。

回	授業計画及び学習の内容
1	Linuxのインストール
2	パッケージ管理
3	Webサーバーの構築(Apache Webページの公開設定)
4	Webサーバーの構築(Apache 設定変更)
5	Webサーバーの構築(Apache ユーザー認証、SSLの利用)
6	Webサーバーの構築(Apache PHPとMariaDBの連携)
7	中間試験
8	SSHの公開鍵・秘密鍵認証、ファイアウォールの設定
9	DNSサーバー(BIND)の構築(DNS権威サーバー)
10	DNSサーバー(BIND)の構築(DNSキャッシュサーバー)
11	メールサーバーの構築(Postfixの利用)
12	メールサーバーの構築(Dovecotの利用)
13	メールサーバーの構築(SSLの利用)
14	総合演習
15	期末試験

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験	小テスト	レポート 自習課題	平常点 (演習提出)	その他())	合計
割合	40%		10%	50%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

#### 【教員紹介】

金融、通信キャリアの構築・運用業務に、インフラ(NW、サーバー)エンジニアとして従事 携帯電話会社のメールシステム構築業務、金融会社のシステム設計・構築業務、等

### 【教科書・参考文献】

オリジナルテキストーLinuxⅡ(サーバー&セキュリティ)

B	開講課程		開講学科	開講年度		履修	対象
工	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2年	前期
講義区	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
基礎専門	必修	実習	VBA	佐藤薫	有	2 単位	30 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

ExcelのVBAを使用してプログラミングの基礎を学び、業務の自動化に役立つプログラムを作成できるようになること。

## 【講義概要】

VBAの基礎をテキストに沿って学習し、後半は販売管理やファイル管理や集計などのプログラムを作成します。どんどん手を動かし てたくさん書いて便利な機能や役立つ機能も身に付けよう。

回	授業計画及び学習の内容
1	第1章 マクロの作成 / 第2章マクロの編集
2	第3章 モジュールとプロシージャ
3	第3章 モジュールとプロシージャ / 第4章 デバッグ
4	第5章 変数と制御構文(条件分岐)
5	第5章 変数と制御構造(繰り返し処理)
6	練習問題
7	第6章 販売管理プログラムの作成
8	総合問題
9	総合問題
10	プログラム作成(申請書ファイルの呼び出しと保存)
11	プログラム作成(シートのパスワード、ファイル管理)
12	プログラム作成(データの集計)
13	プログラム作成(CSV形式への書き出し、取り込み)
14	まとめ
15	まとめ

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	80%			20%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

専門学校でOffice系の科目、派遣会社で企業向けのOffice研修を担当。MOS試験やOffice関連の書籍の執筆も担当。

### 【教科書・参考文献】

よくわかるExcelマクロ/VBA (FOM出版)

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
工	工業専門課程		高度情報システム科	2025		2年	前期
講義区	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門基礎	必修	講義	基本情報対策Ⅱ(科目対策Ⅱ)	井元和彦	無	2 単位	30 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

基本情報技術者試験科目Aにおいて、合格水準の力を身につけることを目標とする。

## 【講義概要】

基本情報技術者試験の科目A及び旧午前試験の過去問題、公開問題、サンプル問題を中心に演習・解説を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	過去問演習
2	過去問演習
3	過去問演習
4	過去問演習
5	過去問演習
6	過去問演習
7	中間試験
8	過去問演習
9	過去問演習
10	過去問演習
11	過去問演習
12	過去問演習
13	過去問演習
14	過去問演習
15	期末試験
[ Ft	。 精評価方法】

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	80%			20%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。

### 【教員紹介】

本校専任講師として、資格対策、セキュリティ、ハードウェア、プログラミングなどの授業を担当

#### 【教科書・参考文献】

IPAが公開している過去問題、サンプル問題

開講課程			開講学科	開講年度		履修対象		
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025		2年	後期	
講義区	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数	
基礎専門	必修	講義	応用情報対策	太田和也	無	2 単位	30 時間	

### 【授業の到達目標及びテーマ】

情報処理技術の応用的知識・技能を獲得し、応用情報処理技術者試験の合格を目指す。

## 【講義概要】

応用情報処理技術者試験の過去問演習を通じて、合格に必要なスキルを身に着ける。

回	授業計画及び学習の内容
1	応用情報対策の講義の説明、過去問演習(午前対策)
2	過去問演習(午後対策:情報セキュリティ)
3	過去問演習(午前対策)
4	過去問演習(午後対策:ネットワーク)
5	過去問演習(午後対策:データベース)
6	過去問演習(午前対策)
7	中間試験
8	過去問演習(午前対策)
9	過去問演習(午後対策:情報セキュリティ)
10	過去問演習(午後対策:プロジェクトマネジメント)
11	過去問演習(午前対策)
12	過去問演習(午後対策:組込みシステム)
13	過去問演習(午後対策:システム監査)
14	過去問演習(午前対策)

## 【成績評価方法】

15 期末試験

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	50%		30%	20%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。

### 【教科書・参考文献】

特になし

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
工	工業専門課程		高度情報システム科	2025		2年	前期
講義区	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
専門基礎	必修	講義	国家試験対策Ⅰ(FE科目B対策Ⅱ)	安藤 真理	無	2 単位	30 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

基本情報技術者試験(FE)の取得を目指すため、科目Bの過去問などや主に出題されるアルゴリズムを学習する。

## 【講義概要】

基本情報技術者試験は過去問から出題されるので、過去問の学習および理解を深める。

回	授業計画及び学習の内容
1	基本情報技術者試験の科目Bについて 受験時の注意
2	ソート①
3	ソート②
4	文字列処理①
5	文字列処理②
6	中間試験対策
7	中間試験解説
8	過去問対策(アルゴリズム小問①
9	過去問対策(アルゴリズム小問②
10	過去問対策(アルゴリズム大問①
11	過去問対策(アルゴリズム大問②
12	過去問対策(セキュリティ①
13	過去問対策(セキュリティ②
14	期末試験対策
15	期末試験解説
【成	績評価方法】

## 【教員紹介】

大学院在学時より小学校ICT支援員とPCクラブ講師に従事。中学数学科・技術科、高校情報科の教員、専門学校にて外国人留学生に 教えるなど様々な教育現場に従事した経験を持つ。

平常点

20%

その他(

)

合計

100%

レポート

#### 【教科書・参考文献】

評価項目

割合

(補足)

基本情報技術者[科目B]アルゴリズムとプログラミングトレーニング問題集(第2版)(大原出版)

小テスト

試験・課題

80%

閉	講課程		開講学科	開講年度		履修	対象
工美	<b>美専門課</b>	程	高度情報システム科	2025		2 年	前期
講義区	分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
一般教育	必修	講義	基礎数学Ⅲ	太田和也	有	2 単位	30 時間

### 【授業の到達目標及びテーマ】

数学で出てくるベクトルと行列の知識はAIの仕組みを学ぶのに必要であるため、多くの例題や問題を解くことでこれらを学び、活用 できることをめざす。 また、今後学習予定の内容の予備知識となる極限値についても問題を通して活用できるようになることをめざす。

#### 【講義概要】

ベクトルと行列の基礎知識を理解し、その計算方法を学ぶ。また、今後学習する微分や積分を理解するために必要となる極限値の知 識も問題を通して、原理と計算方法を学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
1	様々な関数の性質(関数の意味、分数関数、無理関数、対数関数、三角関数)
2	様々な関数の性質(逆関数、合成関数)
3	極限値(極限値の性質、無限等比数列)
4	極限値(無限級数、関数の極限)
5	極限値(片側の極限、三角関数の極限)
6	極限値(関数の連続性)
7	中間試験
8	ベクトルの基本(ベクトルの性質、和、差)
9	ベクトルの基本(内積、ベクトル方程式、空間ベクトル)
10	行列の基本(行列の性質、和、差、積)
11	行列の基本(逆行列、行基本操作、ランクの求め方)
12	ベクトルと行列の関係(一次変換)
13	ベクトルと行列の関係(固有値、固有ベクトル)
14	これまでの復習
15	期末試験

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	60%		30%	10%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

### 【教員紹介】

独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。 大学時代に数学の教員免許を取得。

## 【教科書・参考文献】

特になし。授業中に独自に作成したプリントを配布する。

B	開講課程		開講学科	開講年度		履修	対象
工	業専門課	程	高度情報システム科	2025		2 年	後期
講義区	区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
一般教育	必修	講義	AI数学 I	太田和也	有	2 単位	30 時間

### 【授業の到達目標及びテーマ】

IT業界ではAIに関する開発が進んでおり、AIには数学の考え方が多く用いられている。AIを使うだけでなく、内部の仕組みを理解するのに必要な数学の知識を身に着けることを目標とする。

## 【講義概要】

AIの仕組みを理解するのに必要な微分について、様々な関数における計算方法を学ぶ。 また、微分が実際にどのような場面で使用されるかを回帰分析を通して学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
1	微分法(微分の意味、導関数、関数の最大・最小)
2	微分法(積の微分、商の微分、合成関数の微分)
3	微分法(逆関数の微分、三角関数の微分)
4	微分法(対数関数の微分、指数関数の微分)
5	微分法(高次導関数、マクローリン展開、偏微分)
6	微分法のまとめ
7	中間試験
8	相関図と相関係数
9	単回帰分析と最小二乗法
10	Excelを使用した重回帰分析
11	二項分布と正規分布の性質
12	正規分布の標準化(標準正規分布)
13	母集団と標本と中心極限定理
14	これまでの復習

### 【成績評価方法】

15 期末試験

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	60%		30%	10%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、 60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

### 【教員紹介】

独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。 大学時代に数学の教員免許を取得。

## 【教科書・参考文献】

特になし。授業中に独自に作成したプリントを配布する。

開講課程			開講学科	開講年度		履修対	付象
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025		2年 i	前期
講義区	講義区分  授業形態		授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
一般教育	必修	講義	基礎英語Ⅱ	酒井智子	有	2 単位	30 時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

既習の文法事項の定着をはかりつつ、更に実用的な英語の四技能(読・書・聞・話)の基礎力・応用力を養う。 将来の職場において、身近にある既存のツールを用いての必要最低限以上の対応力を養うことを目標とする。

#### 【講義概要】

世界的に有名な企業について取り上げた教材を用い、その社会的な取り組みに関する知識を得ながら語彙を増やし英語力の基礎を築 く。またITの専門領域に特化した単語集より各回15程度の英単語を例文を通して覚える。小テストや課題を原則毎回こなし、地道な 取り組みによる成果を得ることで、日常の努力が報われる成功体験を得てもらいたい。

回	授業計画及び学習の内容
1	Unit 5 "TOYOTA" (1)、 IT単語・例文プリント⑥-1
2	Unit 5 "TOYOTA" (2)、 IT単語・例文プリント⑥-2
3	Unit 6 "Starbucks" (1)、 IT単語・例文プリント⑦-1
4	Unit 6 "Starbucks" (2)、 IT単語・例文プリント⑦-2
5	Unit 7 "Aeon" (1)、 IT単語・例文プリント®-1
6	Unit 7 "Aeon" (2)、 IT単語・例文プリント®-2
7	中間試験
8	Unit 10 "Apple" (1)、 IT単語・例文プリント⑨-1
9	Unit 10 "Apple" (2)、 IT単語・例文プリント⑨-2
10	Unit 11 "Rakuten Group" (1)、 IT単語・例文プリント⑩-1
11	Unit 11 "Rakuten Group" (2)、 IT単語・例文プリント⑩-2
12	Unit 12 "Amazon" (1)、 IT単語・例文プリント⑪-1
13	Unit 12 "Amazon" (2)、 IT単語・例文プリント⑪-2
14	Unit 12 "Amazon" (3)、総復習
15	期末試験

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	90%	5%	3%	2%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

高校教師(4年)、外資系企業の秘書(5年)、医療系大学で薬学部非常勤講師の経験(2年半)あり。 取得資格:英検1級、全国通訳案内士、医療通訳士技能検定2級(日本医療通訳協会)

#### 【教科書・参考文献】

【教科書】 Purpose - Companies for Social Good 「英語で学ぶ社会における企業の存在意義」(金星堂) 【参考文献】IPA セキュリティ英単語集(情報処理推進機構 website より)

開講課程			開講学科	開講年度		履修対	象
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025		2 年 後	期
講義区分  授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時	間数
一般教育 必修 実習		実習	プレゼンテーション	山際 能理子	有	2 単位	30 時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

目的:伝え方の技術を学び、社会人にむけての基礎力を養う 目標:効果的なプレゼンテーションスキルを習得し、今後の就職活動に活かす チーム作業を通して、協働する喜びを知る

### 【講義概要】

前半は、プレゼンテーションの基本理論を学びながら、説明や説得のテクニックを実習で体得します。

後半は、課題を組み立て発表し説明力の向上を図ります。

回		授業計画及び学習の内容
1	【オリエンテーション】	説明力概論説明と説得
2	【心理メカニズム】	相手(聞き手)の心理を理解する
3	【非言語①】	非言語の重要性を知る(視覚情報と聴覚情報)
4	【非言語②】	空間管理の活用 ツールの利用法
5	【説明カテクニック①】	インタビュー プランニング ネゴシエーション (パソコン持参)
6	【説得力テクニック②】	応酬話法 論理構築
7	【プレゼンテーション基礎】	全体構成 PREP法 課題作成
8	【プレゼンテーション基礎】	全体構成 SDS法 課題作成
9	【プレゼンテーション基礎】	スライドの作り方 レイアウト 文字の大きさ 配色
10	【プレゼンテーション準備】	チーム作業 全体構成案の提出
11	【プレゼンテーション準備】	チーム作業 進捗チェック
12	【プレゼンテーション実践】	チーム発表・評価
13	【プレゼンテーション実践】	チーム発表・評価
14	総合評価	
15	まとめ	

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	50%			50%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

専門学校や大学では、ビジネスマナー、社会人基礎力、就職対策、キャリアデザイン、プレゼンテーションを担当。 企業や官庁において、新入社員から管理職までの研修を担当。著書にサービス接遇や説明力がある。

### 【教科書・参考文献】

説明力強化

開講課程			開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		程	高度情報システム科	2025		2年 後期
講義区	講義区分  授業形態		授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数
一般教育	必修	講義	企業会計 I	木村和也	有	2 単位 30 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

簿記を通じて、ビジネス会計に必要な知識を習得していきます。仕訳から決算書作成までを学んでいきます。日商簿記3級合格レベ ルを目指します。

## 【講義概要】

人間の社会活動において財務と会計は非常に重要なものです。その財務と会計の基本となる技術が簿記です。そんな簿記の技術を用いて、企業の取引を記録して集計し決算書を作成するまでの流れを学習していきます。

回	授業計画及び学習の内容
1	簿記とは、オリエンテーション
2	1. 簿記の基礎
3	2. 現金、当座預金
4	2. 当座借越、小口現金
5	3. 商品売買
6	3. 商品売買②
7	中間試験
8	3. 商品売買(商品有高帳)
9	4. 手形
10	5. その他の資産負債
11	6. 固定資産
12	7. 試算表
13	8. 決算手続
14	8. 決算手続②
15	期末試験

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	80%	10%		10%			100%

(補足) ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。

- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

### 【教員紹介】

税理士・行政書士・介護福祉士の資格を保有。現在は、税理士事務所を立ち上げて活動中。企業経営実績や介護福祉事業所の運営経 験などがあり、これらを活かした「実務に役立つ授業」をしていきたいと思っています。

### 【教科書・参考文献】

サクッと受かる日商3級商業簿記テキスト(ネットスクール出版)、レジュメ

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2025		2 年 後期
講義区分  授業形態		授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数
一般教育 必修 講義		情報関連法規 I	佐久間 悠太	有	2 単位 30 時間

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

- ①現代の市民生活を送るうえで必要な法的知識を修得する。
- ②情報処理技術者として必要な法的知識を修得する。

#### 【講義概要】

本講義では、身近な法律問題を取り上げて、法律学の基本的な知識を修得します。また、情報処理技術者として必要な法的知識を修 得します。単なる知識として理解するだけでなく、具体的な事例をもとに、法的思考を養うことを目標とします。

回	授業計画及び学習の内容
1	イントロダクション(法とはなにか、日本の法律の基本的構成)
2	日本国憲法の基本について理解する①
3	日本国憲法の基本について理解する②
4	日本国憲法の基本について理解する③
5	民事法の基本について理解する①
6	民事法の基本について理解する②
7	中間試験
8	民事法の基本について理解する③
9	刑事法の基本について理解する①
10	刑事法の基本について理解する②
11	刑事法の基本について理解する③
12	情報処理技術者として必要な法律について理解する①
13	情報処理技術者として必要な法律について理解する②
14	情報処理技術者として必要な法律について理解する③
15	期末試験

#### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(	)	合計
割合	70%		15%	15%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。

## 【教員紹介】

名古屋市立大学大学院修士課程修了。専攻は憲法学。大学院修了後、中日本高速道路株式会社に8年間勤務し、法務業務(契約書審 査や訴訟対応等)や情報システム業務を主に担当。2021年に同社を退職し、現在は行政書士佐久間事務所の代表として、企業の法務 業務をサポートしている。東北大学大学院博士課程に在籍中。

#### 【教科書・参考文献】

米丸恒治編『18歳からはじめる情報法〔第2版〕』(法律文化社、2022年)

開講課程			開講課程開講学科		開講年度		対象
工業専門課程 高度情報システム科 2025					2年	通年	
講義区分  授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
一般教育	必修	実習	体育実習Ⅱ	高度情報システム科 担当教員	無	2 単位	30 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。 学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。 心身の健全な育成を目指しています。

### 【講義概要】

この授業は、学園祭(準備2日間、学園祭2日間)の参加を以て、評価します。

授業計画及び学習の内容
学園祭準備(1日目、2日目)
学園祭(1日目)
学園祭(2日目)、後片づけ
-
-
-

### 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(出席と取り組む姿勢)	合計
割合					100%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【粉	昌紹	
1 4 7	貝派	1 <i>1</i> 1

## 【教科書・参考文献】

開講課程			開講学科	開講年度		履修	対象
工業専門課程			高度情報システム科	2025		2年	通年
講義区分  授業形態		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・	時間数
一般教育	選択	実習	課外活動Ⅱ	高度情報システム科 担当教員	無	1 単位	15 時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

インターンシップで就業体験をしたり、企業との産学連携事業を通して特別授業やセミナーを受講、外部の勉強会やコンテスト参 加など、就職に役立つ知識の習得や最新の技術動向に触れるなど、学内の授業だけでは体験できないことを経験する。

## 【講義概要】

参加した時間数に応じて1次元単位時間を超えた場合に1単位を認定する

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	インターンシップ、企業が実施する特別授業、セミナー受講、外部の勉強会参加、 コンテスト参加など
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(出席と取り組む姿勢)	合計
割合				50%	50%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校 高度情報システム科